

青空同人印象記（大正十五年六月號）

『青空』記事

梶井基次郎

青空文庫

忽那に就て

忽那はクツナと讀む。奇妙な名だ。こんな話がある。高等學校では彼も教場を下駄穿きで歩く方だつた。獨逸人の教師が、

「何故下駄で教室へ入るのだ」と或日彼に云つた。

「靴がないのです」

そこでヘルフリツチユ先生が

「道ナチュール理リッヒで クツナ」

忽那の生國は伊豫だ。彼は犬神の話を持つてゐる。鬪鷄の話。海上の婚禮の話。おこぜの話。——そんなところから郷土的な

「肥料盜人」のやうなものが生れた。

高等學校ではラグビーをやつてゐたことがある。應援團の中に
もゐた。それでゐて畫をやる。かなり多方面だ。高等學校でも大
學でも獨逸人には「シエーンシュライバー能筆」^{シエーンシュライバー}と云はれる。

情に脆く人なつこい性質とその半面の孤獨——時として彼はま
いまいつぶらの様に蓋を閉ぢてしまふ。

私は彼の印象から龍を畫くことが出來さうだ。然し睛を點じる
ことは忽那よ、それは私一人ではやれないことだ、友情を力にし
て、二人で睛を點じようではないか。

飯島に就て

寄宿舎の受付には外國からの映畫雑誌が飯島宛に澤山来る。古顏の生徒が勝手に開封して「シヤンだな」など云つて頁をまくる。飯島はそれを一番嫌つた。活動から歸つて來ると、「義侠のらつふるず」といふ風にノートへ役割からシナリオから何から何まで書き入れる、——そんな熱心さだつた。佛文科へ入ることは一等最初から極めてゐた。同室だつた自分は隨分影響をうけた。それが京都で三年、私が遅れて東京へ來てからも、まだ續いてゐた。そして飯島の名は人々の知るところとなつてゐた。小方又星、伊吹武彦、淺野晃、そんな人々と新思潮に據り戯曲をどしきり發表し出した。その人が病氣になつた。確か一昨年の冬だつたと思ふ。

それから此方まだ快くならない。

飯島ははつきりした人だ。たくらまない表現がそれを語つてゐるやうに、正直な淡白な人だ。そのなかに自からの含蓄を持つてゐる。

詩を作るやうになつたのはやはり病氣になる前後だつた。高輪の家で君の枕頭ではじめて君の小説は讀んだ。君の制作力は健康な私達を壓倒する位だ。毎日二三頁を書いたとか。大部の未完原稿が此の間届き、私は驚いた。君は病から病へ苦しみ續けて來た。そして私達の知らない様な心境に到達したと見える。その間の心の歩みは尊く涙ぐましい。

私は君の學殖に敬意を拂ふ。そして君の素質に大きな期待を持

つ。
早く快くなつて呉れ。

青空文庫情報

底本：「梶井基次郎全集 第一巻」筑摩書房

1999（平成11）年11月10日初版第1刷発行

初出：「青空」

1926（大正15）年6月号

入力：土屋隆

校正：高柳典子

2005年5月5日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫(<http://www>

.aozora.gr.jp)で作られました。入力、校正、制作にあたつたのは、ボランティアの皆さんです。

青空同人印象記（大正十五年六月號）

『青空』記事

2020年 7月13日 初版

奥 付

発行 青空文庫

著者 梶井基次郎

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>

※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。

<http://tokimi.sylphid.jp/>